

古高取を伝える会会報

直方の高取焼



目次	
退任のご挨拶	2
古高取の広場	2
活動の記録	4
なんでも掲示板	10

『門松は、・・・めでたくもあり、めでたくもなし』 一休

皆さまご存じの砂時計がある。時を計る道具である。この時間の計り方は、上と下とをひっくり返す事から始まる。見ようによつては、下に溜った砂は時間的には過去であろう。それをひっくり返す訳であるから、今度は過去が未来に置き換わる事となる。「前向きの過去」これはかなり楽しい心持でもある。

古高取を伝える会は、このような感じではないのか。「温故知新」の味わいだ。先般水辺館で催された講演会・考古学研究も気分は同じであろう。

さてこの砂時計こうも考えた。生涯砂時計を造つたらどうなる。平均寿命から考えたら、相当大きな物となろう。(実際は無理)私の誕生にヨイショとひっくり返す。

砂時計の最もくびれたところを、ハチの腰と言うそうだ。このハチの腰の間(すきま)を一ミリとする。間違いない。定量の砂の微粒子が落ちる。

皆さん、現在どのくらいの砂がのこっているのか、一目瞭然であろう。そして上のハチにひよつとすると二、三ミリの砂が含まれているとどうなるのか。今日唯今とは、まさにこのハチの腰の一点である。

鷹取 宗恵

送別

新年あけまして、おめでとうございませう。

私、このたび、「古高取を伝える会」会長を退くことになりました。四年間にわたり、多大なお力添えをいただき、深く感謝致しております。

本会の活動の重点であります、①活動の拠点づくり、②古高取の知識を深める、③古高取の魅力を伝える、④次世代へつなげる、の四本柱は、大きな価値ある取り組みであり、これが継続され、充実した事業として、地域の方々にも評価されてきたことは、うれしかぎりです。

これまでの思い出は数多くありますが、その中でも印象に残るのは、直方市の子供たちの素晴らしい笑顔でした。茶碗をつくる子

もたちの表情は、どの子も真剣そのもの、将来の直方を背負う、心意気が伝わってくるようでした。また、博多の寺町散策は、古高取のもつ価値をより深く、導いてくれました。加えて、素晴らしい仲間たちとの出会いは、私に、大きなエネルギーを与えてくれました。

昨年の十二月十三日より、直方市教育長として直方の教育行政を担うこととなりました。

今まで培った経験を生かし、皆様方の声を施策にとり入れ、子どもが将来への夢がもてる、楽しく活気ある学校づくりへ進んでいくことが大切だと考えています。

古高取を伝える会とは、一会員として支えていきたいと思っております。今後とも、変わらぬご支援、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

能間 瀧次



何て呼んだの？内ヶ磯窯

小山 亘



直方文化財調査報告書 第五集より

文章による史料は現場に関わった人物が遺したものには勝るものはない。

今回は古高取内ヶ磯窯に関わった人達が遺した中から、内ヶ磯窯を何と呼んでいたのかを調べてみることにした。まずはじめに調べたのは、内ヶ磯を築かせた筑前福岡初代藩主黒田長政のものである。信憑性を考えて『福岡県史』を軸に調べたが、遺した史料は見つからなかつた。県史の様な記録史料は時系列で記載されていくので順序が入れ替わることは考えられない。そこで続く二代藩主黒田忠之

の記録にまで下っていくと、黒田忠之の判物写(四九七)、(四九八)、(五〇〇)、(五〇六)に「茶入、茶碗、水指、香合」といった茶器の名称と「高取」の文字を発見した。

(四九七) 黒田忠之判物写

「五月六日 郡 正大夫とのへ

猶似ひやうたん水さしニハみく

(耳)ヲニニ付、四ツハみゝなし

ニ焼せ可申し候

一、水指式下シ候条、如此ニ高取

ニて七ツ宛こふりニ焼せ、都

合廿申付、八九月自分ニ江戸

へ可越候

一、博多ニてついしゆ(堆朱)并

くなく(し力)之香合相尋、い

くつニても可越候、能ヲ留申、

悪は返し可申候也」

(四九八) 黒田忠之判物写

「六月十三日付 郡 正大夫あて

一、今度早々伺公申ニ付、従御

本丸米千俵拝領候、いつれ之

大名衆参之上刻も、か様之事

ハ無之事ニ候、仕合無残所候

(中略)

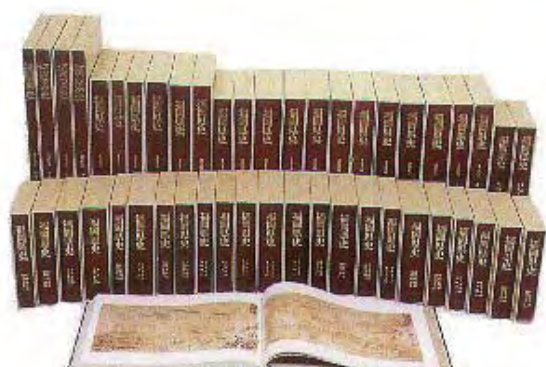
一、弥次右衛門申遣候高取焼水

指、同茶碗、出来次第態申付

可越候、

一、此方より不申遣ニ茶入焼せ

候事堅法度可申付候也」



福岡県史資料

(五〇〇) 黒田忠之判物写
 「八月四日 郡 正大夫とのへ
 一、高取にて焼物先申付候事無
 用二候、猶追ひ可申遣候也」
 (五〇六) 黒田忠之判物写
 「十一月廿九日 郡 正大夫あて
 一、相国様廿二日ニ御鷹野へ御
 成候、御鷹場より御鉄砲白鳥
 拝領申候間可心安候(中略)
 一、高取ニ而念入、茶入、茶碗
 能焼せ可申候、両上様へ可懸
 御目と存候、」

である。

この黒田忠之判物写のうち
 (四九七)(五〇〇)には「高取にて」
 と記されているので明らかに場所
 すなわち窯場を示している。記載
 されている月日は間違いなく順送
 りになっているが、年号が記され
 ていない。そこで注目したのは本
 文である。
 (四九八)は、後水尾天皇の二条
 城への行幸を仰ぐため、寛永三年
 六月、二代将軍徳川秀忠、三代将
 軍徳川家光が江戸から上洛した際
 いち早く黒田忠之が参上し、その
 時に褒美として米千俵頂いたとい
 うもので、『徳川実記』寛永三年
 六月の記事に「松平右衛門佐忠之
 御上洛に先達て、早く参観せしを
 褒せられ米千俵給ふ」とある記述
 と符合することや、『徳川実記』
 寛永四年十一月十三日の記録とし
 て「大御所東金に放鷹の御遊あり」
 とあることから、黒田忠之判物写
 (五〇六)は寛永四年十一月二十九
 日とみて良い流れとなっている。
 寛永四年の時点では、内ヶ磯窯の
 次なる白旗山窯はまだ存在してい
 ないため、ここに見る「高取」は
 内ヶ磯窯ということになる。この
 時期李朝陶工八蔵は藩主忠之の勘
 氣にふれて山田村に蟄居させられ
 ているので、内ヶ磯窯で茶陶を焼
 いていたのはどう考えても日本人



福岡市美術館 特別企画「大名茶陶—高取焼」展 図録より

の陶工達と言わざるを得ない。
 内ヶ磯窯の茶陶の流通の中心は
 京三条「せとものや町」であること
 は既に学習会等で紹介した。京三
 条「せとものや町」で陶器商を営み、
 注文主の求めに応じて茶陶製作も
 していたといわれる別所吉兵衛は
 『別所吉兵衛一子相伝書』(『別
 所文書』)なる文書を遺していて、
 そこには次のような一文がある。
 『別所文書』(小田栄作氏写本引用)
 「国焼遠州好
 一、肥前高取 金森宗和御物数奇に
 て某が従弟茂右衛門下り焼。」
 とある。研究者によっては筑前高

取を肥前高取と写し間違えたと考
 える方もいるが、国焼遠州好の高
 取となれば、某(吉兵衛)の従弟の
 茂右衛門が京から下り、「宗和の好
 み」の茶器を焼いた窯場は筑前福
 岡二代藩主黒田忠之が高取と呼ん
 で茶器を焼かせていた内ヶ磯窯と
 しか言えない条件を整えている。
 したがって生産流通の中心人物
 二代藩主忠之と吉兵衛が内ヶ磯窯
 を「高取」と呼んでいたことにな
 る。また職人の口伝として「天下一
 の織部の隠れ大窯」というものも
 ある。これは現場を目の当たりに
 した職人でないと伝えられないも
 のであろう。そうなると、当時内
 ヶ磯窯に関わった人々は内ヶ磯窯
 のことを「高取」あるいは「天下一
 の織部の隠れ大窯」と呼んでいた
 ものと思われる。「温故知新」、
 古きを訪ね新しきを知る。何事も
 気の遠くなるような作業の積み重
 ねであるが、あきらめずに視点の
 違うところから見ると新しいもの
 が見えてくるものである。古高取
 という貴重な文化遺産が消えるこ
 とのない光を放っている。がんば
 れ日本！今年も様々な視点から見
 えてきた古高取を伝えていきたい
 と思う。

直方の地は素晴らしい処

藤澤 典子

人、風景、歴史、郷どれもこれもが、この地の古高取の魅力と同じように、心ひかれてしまいます。その味わいは、現代社会の情報のように急いでやって来るものではなく、ゆっくりと、じんわりと響いてきます。まるで人の鼓動のように、歩く歩幅と同じように・・・。そして永い歴史を経ても、今も前衛を感じさせる古高取の焼物が、この地にあることは、うなずけるような気がします。

この焼物を伝承する取り組みが未来の時代を担う子ども達に、机上のことだけに留まらず地元の方



々によって、体験により継続されていこうとされていることは、何より子ども達の忘れえぬ宝物となるでしょう。

土と対話しながら、自分だけの姿が現われ、またそれが両手に抱かれ、大切な物へと変わっていくことまで味わうことが出来るこの焼物の体験。この体験は、将来、間違いなく、優しく包み込む。

ここ直方の心を育て、きつと茶碗を作ったひとりひとり、それぞれを郷土への愛と誇りが持てる、幸せな大人へと成長させてくれるように思います。

世界でひとつの高取焼

坂本 環

ご縁を頂いて、子ども焼き物教室のお手伝いに伺いました。陶芸はした事はありませんが、詳しい知識はなく、「古高取」と言う焼物があることも、この機に初めて知りました。

直方の歴史的財産を、子どもたちに伝えていくこの活動は、自分の住んでいる所に、こんなにも貴重なものがあると言うことを知る

だけでなく、体感できるのがすばらしい！

直方の方たちは皆、「古高取」と言う焼物が直方の文化遺産と理解していて、製作工程も経験し、高取焼を必ず一つは持っている。しかも、自分たちで作った世界で一つの高取焼・・・。

私の地元では無いことで、すばらしいなあと感激しました。直方の宝(古高取)が、直方の宝(子どもたち)に受け継がれる・・・。すてきです。

子どもたちが、素直に土に向かい、素直に土の感触を味わい、形づくっていく・・・。なんとも心がすつきりとするひと時でした。



〈原稿募集〉

「古高取」の魅力を発信するための原稿を募集しています。掲載可能な原稿等がございましたら、事務局までご連絡ください。紙面や内容の関係等で、ご希望通りに掲載できない場合もございます。

活動の記録

●子供焼物教室

後期(平成二十三年九月～十月)

前期(五月～八月)に引き続き、後期三校で子供焼物教室を実施しました。

今年も無事に市内の小学校を回り終え、どの学校もとても良い作品が出来上がりました。

子ども達に古高取のことを話し、次世代へつなげていくと言う「古高取を伝える会」の活動が四年目となった今、点から線となり、ようやく繋がって来たように思います。

そして、お茶会にも繋がっていくことで、子ども達が茶陶器の歴史と文化を学ぶことにもなるのではないのでしょうか。

永富 セツ子

「第九回」

〈平成二十三年九月九日(金)〉
場所：福地小学校



「第十一回」

〈平成二十三年十月四日(火)〉
場所：上頓野小学校



「第十回」

〈平成二十三年九月二十二日(木)〉
場所：下境小学校



・ ・ ・ ・ ・

伝える会が、四本柱の一つに位置づけている焼物作りを通して「直方の宝」を伝えていくと言うことでは、少しづつ伝わっているという実感をつかめた三年目でした。生徒数の多い学校もあり焼物指導者人数集めに苦労しましたが、ご協力していただいて何とか乗り切った状況です。子供達が作文を送ってくれました。

紙面の都合で一部紹介させていただきます。

焼き物教室のみなさんへ

今日は焼物と教える来てくださってありがとうございました。ごさいましたお持の方のお話しはいろいろな気持ちがいっていて、わかりやすかったです。作るのびびりがはいたりして難かたけどとても楽しかったです。

中島 魁星

焼き物教室の方へ

金曜日はいそがしいのに来てくださってありがとうございます。最初の高山の説明よく分かりました。高山から焼き物が出てきたことは初めて知りました。初めて焼き物を作る土をさわる時、とてもきんちょうしました。途中で失敗しても教えてくれてありがとうございます。できた時はとてもうれしかったです。たです。焼き物教室はとても楽しかったです。福地小学校6年組 植原 湧

焼き物教室の方 および
スタッフの方へ

先日9月9日(金)は、6年生のために、大事な
時間をさいて来ていただき、まことに
ありがとうございました。初のは歴史が
ら。その後にしかたも教えていただき
ました。ぼくは今までに2回焼き
物をしたことがありました。
やさしく、分かりやすく教えてもらい
自分でもよくできましたと思いました。
来年の6年生にもどうかよろしく
お願ひします。ありがとうございました。

6年 宮永清剛

焼き物教室の方へ

この間はわざわざ私達のために教えに来て
くださってありがとうございました。
最初はもと難しくて、時間もかかるのかと思っ
ていたけれど、とても楽しくてあという間でした。
わかりやすく教えていただいたりしたおかげで
自分で思っていたよりもうまく作ることができました。
それに 明元寺のおほうさんのお話で、高取焼の
歴史などがわかりました。
みなさんのおかげで楽しく作ることができました。
3学期のお茶会がとても楽しみです。
また期会があたら作りたいです。
本当にありがとうございました。

花田 彩葉

上記の他、古高取を伝える会の
ホームページでも一部紹介させて
いただきます。

※昨年、学校に向向き子供達の陶
芸教室が「生きがいよく」と嬉しそ
うに話され、一番頑張つて下さっ
ていた山本元春先生と悲しいお別
れをしました。

力を合わせて活動を続けていき
ますので見守つて下さい。ご冥福
をお祈りいたします。

末松 登志子

●古高取基礎研修講座
現地研修 〳博多寺町散策 〳

〳平成二十三年十月二十三日(日)〳
場所：福岡市内

午前十時博多駅に集合、参加者
十八名、天候は曇り時々小雨であ
った。

最初に散策ルートを書き上げて
見ると、博多駅博多口広場〳万行
寺〳榎田神社〳博多町家ふるさと
館〳聖福寺〳承天寺〳昼食〳JR
ハカタシティで自由解散という予
定で出発した。集合が三〇分遅れ
で、祇園町の「万行寺」へ、当該の寺
は真宗西本願寺派で、開基は性空。
享祿二年(一五二九) 普賢堂町に



道場を営む、慶長年中本願寺東西
分裂の時藩主長政の命で西派とな
り、末寺七〇余の筑前国の触頭で
ある。寺内には貝原益軒高弟藩
竹田定直や博多の名娼で「往生譚」
の主人公、明月尼の墓等を見学し、
次の博多の総鎮守として崇敬され
ている「榎田神社」に。奉納され
る祇園山笠は重要無形民俗文化財。
博多の町割が行われた際、樂市樂
座を命じた豊臣秀吉の朱印状や近
世博多の民政資料などを博多歴史
資料館に保管されている。追い山
の清道を通つて参拝。社殿広場で
は「はかたくんち」の縁日の日
であったため、甘酒とぜんざいの振
舞を受けて、土産に薩摩芋を二個
いただいた。境内の飾り山を見て、
次の「博多町家ふるさと館」へ。
博多べいを見て、町家の資料展示

を見学し、お抹茶をごちそうにな
って、御供所町の「聖福寺」へ、当
寺院は建久六年（一一九五）千光
国師栄西の開基。禅寺の伽藍配置
をよくとどめる境内は国の史跡。

九州探題がおかれていた場所で、
日本で初めてお茶を栽培した場所
に、石碑が建立されていた。本堂
は修復中であった。江戸期の文化・
文政の名僧仙崖和尚が住職で、書
画は寺庫や市美術館・出光美術館
に集められている。

南に一〇分歩いて博多駅前一丁
目の「承天寺」に至る。開山は聖
一国師で仁治三年（一二四二）宋
出身の貿易商で博多に住した謝国
明の創建。一九七五年韓国の新安
沖海底引揚げの沈没船から子院釣
寂庵（ちようじやくあん）の銘の
ある木筒が発見され、対外貿易へ
の関与が照明された。また博多織
の祖として伝える満田弥三右衛門
明治の新派俳優川上音二郎の墓が
あった。

散策後、予定した食事処で昼食
を一時間とり、博多駅の阪急のJ
Rハカタシティで自由解散となつ
た。時は三時半を打っていた。

学習部会主催の博多寺町を散策
するに参加された皆様ご苦労さま
でした。来年度もよろしく！

副島 邦弘

●地域対象焼物教室 ↳直方ロータリーアクトクラブ

（平成二十三年十月三十日（日））
場所：福岡県立大学（田川市伊田）



私たちが直方ロータリーアクトクラ
ブは、奉仕と親睦、そして地域に
根ざした活動を目的に、十八歳か
ら三十歳までの青年男女で構成し
ている団体です。この度、二〇一
一年十月三十日（日）に県内の同
じ団体に所属する仲間が、直方ロ
ーターアクトクラブを訪問して、
一緒に活動を行う機会があり、古
高取を伝える会の皆様のご協力の
下、抹茶茶碗作りを行いました。
直方の誇る古高取の魅力を、多
くの仲間達に知ってもらいたいと

考え、まず歴史を学び、その後、
茶碗作りを体験してもらいました。
参加者の多くが、陶芸初体験で、
土の感触を楽しみながら、和気あ
いあいと活動できました。制作中
も、伝える会の皆さんが、とても

親切に教えて下さったおかげと感
謝しています。茶碗が焼き上がり
完成した作品を手にしたときの感
動は言葉になりませんでした。自
分で作ったマイ茶碗で、平成二十
四年一月十五日（日）に直方歳時
館で「新年茶会」をする予定にし
ています。県内各地から再び仲間
が直方に集まり、古高取の歴史を
感じながらお茶会が開催できるこ
とをととても嬉しく思っています。

古高取を伝える会の皆様、本当
にありがとうございました。

直方ロータリークラブ提唱
直方ロータリーアクトクラブ会員
一同

●地域対象焼物教室

↳光福寺親子焼物教室

（平成二十三年十一月十二日（土））
場所：光福寺（直方市下境）

秋晴れのこの日、下境にある光
福寺で子供日曜学校が行われ法要

に引き続き親子焼物教室を実施し
ました。

広い境内の中で親子の賑やかな
楽しい話し声の中、子ども達はお
茶わん作りで夢中でした。

お父さんやお母さん、おばあち
ゃんやおじいちゃんも子ども達と
一緒に土に触れ、とても楽しい様
子でした。終了後、子ども達と一
緒においしいカレーをいただきま
した。昨年よりお寺での実施は二
回目でしたが、これからも地域焼
物教室をいろんなところで行って、
「古高取を伝える会」の活動を広め
て行けたらと思っています。

永富 セツ子



●古高取窠跡探訪
「紅葉ウォーキング」

〈平成二十三年十一月二十七日(日)〉
集合場所…内ヶ磯鳥野神社前広場
昼食…上頓野もととり広場にて
参加費用…五〇〇円(昼食代含む)



山々がそれぞれに色づき、個々のご家庭の庭の美しい紅葉を楽しみ自然を体いっぱいと感じながら、福智山ダム周辺を散策し、善明池、どんだんの滝、もととり広場と上頓野を歩き、直方の魅力を再発見する事が出来、有意義な一日を過ごしました。水面に映る木々の美しさ、澄み切った空気を思いっ

り吸い込み、気分上々と歩き始めましたが、日常の車生活のせいですぐに息が上がって運動不足を実感しながら、道すがらの小さな発見を楽しみ、もととり広場に到着いたしました。普段車で通っている道ですが、歩くとき々なものが見えてくるんですね。

何よりうれしかったのは、三時間半程歩いて、草臥れ、お腹ぺこぺこ状態の私たちをおいしい料理が迎えてくれたことです。おいしかったです。

くりごはん、かしわごはん、豚汁お漬物、等々本当においしかったです。

ありがとうございました。

橋本 晴美

●古高取基礎研修講座
「まとめ講演会」

〈平成二十三年十一月三日(土)〉

十四時～十五時半
場 所…遠賀川水辺館メダカホール
(直方市溝堀一丁目)

テーマ…最近の考古学事情
～古代から近世まで～
講師…九州歴史資料館
館長 西谷 正氏



今年度の学習部会を総括する講演会は、十二月三日(土)九州歴史資料館館長の西谷正氏(九州大学名誉教授)を迎えて実施した。

演題は、「最近の考古学事情～古代から近世まで～」を遠賀川水辺館メダカホールで行ない、出席者は四十八名で、ほぼ満員に近い人たちが集まった。
能間会長の挨拶後、先生の講演となり、資料二十六枚を使用して進めることとなった。

講演内容は、Ⅰ、はじめに Ⅱ、古代―太宰府以前・太宰府関連遺

跡 Ⅲ、中世―対外関係 Ⅳ、近世―江戸城下町と大阪城再築 Ⅴ、おわりに という組み立てであった。

話は、考古学側面から遺跡と遺物を踏まえながら、新聞やマスコミ等に取り上げられたものの中から重要な位置づけになるものを丁寧に表示されたものであった。

Ⅰでは、歴史考古学と先史考古学の違いを話され、

Ⅱでは、①福岡市元岡古墳群 G 六号墳象嵌銘太刀 ②福岡市鴻臚館と供給瓦窠・③久留米市筑後国府および行橋市福原長者原遺跡。

Ⅲでは、島根県益田市沖手中須遺跡・長崎県松浦市元寇沈没船。

Ⅳでは、東京都港区愛宕下遺跡、兵庫県芦屋市と佐賀県唐津市の大阪城石垣石切丁場跡。

Ⅴで、近・現代考古学の問題とまとめられた。北部九州から全国視野で見たものを淡々と話された。

その中でも、力点を置かれたのは、古代と中世の元寇沈没船であった。この二項目について記述してみる。



IIの古代では、
①元岡古墳群G六号墳の石室から、銘文が象嵌で記された鉄製の大刀が出土した。

銘文は全部で十九文字が刻まれ、大刀が作られた千支の年号と日付の記載があつて、西暦五七〇年に制作された可能性が高い。それと銅鈴も出土しており、古墳時代終末期の首長クラスの古墳であつた。特記すべきは、象嵌の銘文は、大刀の峰の部分に次のように彫られている。「大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀 凡十二果口」と、庚寅は刀を作った

年を千支で表して、持統朝以前に日本で用いられているのは「元嘉歴」で、これにしたがえば西暦五七〇年にあたると考えられる。古墳時代の銘文をもった刀剣は全国で八例目で、そのうち紀年銘をもつものは五例目で、そのほとんどが国宝・重要文化財に指定されている。

②古代の迎賓館施設である鴻臚館跡からは多くの瓦が出土しているが、どこで作られ、どのようにして運ばれてきたのか謎であつた。女原瓦窯跡群から出土した瓦は、瓦に残る「キズ」や「叩き目」などの共通する特徴から、鴻臚館の建物に使われていたことが証明された。

③筑後国の成立するのは七世紀末で、前身官衙の役割を引き継ぐ形でI期（古宮）国庁が設けられた。ついで、八世紀中頃には律令支配の拡大、充実が図られるII期（阿弥陀）国庁として造りかえられ、十世紀中頃には再びIII期（朝妻）国庁として移転し、十一世紀末にはIV期（横道）国庁が造成され、十二世紀後半まで命脈を保ちつつも、文献資料が



ら有名無実化した状況となつた。

今回、東九州道建設に伴う発掘調査で発見された行橋市南泉の福原長者原遺跡から、奈良時代の官衙跡と考えられる建物跡や遺物が発見された。

豊前国庁はみやこ町国作、惣社地区に置かれ、八世紀から十二世紀までの遺構等が検出されており、福原長者原遺跡は、時期的に一時代古い官衙と考えられ、今後の研究に期待される。

IIIの、中世では、長崎県松浦市の鷹島沖で元寇の沈没船が発見された。琉球大学研究グループの手

によつてであつた。沈没船はキール（幅五十七センチ、長さ十二メートル）の両側に船底の外板材（幅十五〜二十五センチ、長さ一〜六メートル）が当時の姿をとどめて整然と遺存し、隔壁や肋材の痕跡も認められるなど、船体構造の核心部分に触れる資料が検出された。軍船と元寇の実態解明に確かな一歩となり、今後の研究に意義深い発見である。

伊万里湾内の音波調査では、六十ヶ所の海底面上もしくは地層中に、異常な反射体が認められている。調査は、十五年度まで続けられることになり、第二、第三の沈没船の発見が期待される。中国・韓国のような国家レベルの水中考古学研究所が必要である。四面を海に囲まれている日本では！と結ばれている。

紙面の都合で、他の項目について割合するが、結論的には、新聞・マスコミ等にかかれ、報道される文化財記事から、西谷氏の解説と、これから見えてくるものを深読みされて、今後の研究の素材と目的・注目度を解かれた。

最後に、能間会長の謝辞があつて閉幕した。

金剛山もととり保全協議会
だより

発足二年目の総会を五月に、秋には収穫祭及び懇親会、十二月には里山清掃と懇親会を行い、来年度に向けて会員の結束を確認しました。

「伝える会」では四月に谷尾美術館での「古高取・古唐津展」のご協力感謝と反省会を兼ねて里山に行いました。

また秋には紅葉ウォーキングの終着地にし昼食をしながら親睦をはかりました。



春の芽吹き、山桜、そして六月は、山いっばいのあじさいが咲きます。

「伝える会」は団体で協議会会員ですよ。里山に遊びに来ませんか。楽しいですよ。

末松 登志子

なんでも掲示板

●のおがた須崎町公園ステージにて

平成二十三年十一月六日(日) 午後

場所：殿町商店街内

第二十八回の「のおがた須崎町公園ステージ」にて、古高取のパネル展示が行われました。



●第十五回「のおがた男女共同
参画フェスタ」にて

平成二十三年十二月十一日(日) 午後
場所：ユメニテイのおがた大ホール

第十五回「のおがた男女共同参画フェスタ」にて古高取の魅力発信と「古高取・古唐津」展の目錄等を販売致しました。



〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

先日、役員の一人から電話があった。知人から、「古高取を伝える会では、四百年祭実行委員会から預かった剰余金を、飲み食いに使っているらしい。どの噂がある」と言われたとのことであった。

会の活動を知らないで語る、心ない一言が、一生懸命頑張っている人をどれだけ傷つけるか考えて欲しい。

不審なことがあるなら、会に参加し自分の目で確かめたらどうか。間違ったことがあったら、堂々と批判したらどうか。

ちなみに、剰余金は、子ども焼物教室関連に用途を限定し、特別会計で処理している。必要なら、資料を請求して欲しい。

「古高取通信」会報・NO11

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

平成二十四年一月十六日

〈現在の会員数〉

正会員 七十二名(七十日)

賛助会員 十七名(十八日)

団体 二団体(三日)

〈マイ茶碗の数〉

3761個

〈事務局〉

〒八二二〇〇二六

福岡県直方市津田町七十四

TEL 〇九四九(二三)二三一一